

120年の軌跡 2

このコーナーでは、宇都宮の120年の歩みを年表と写真で紹介します。

明治44年～大正7年



◀新築された市庁舎 新庁舎は木造2階建てのL字型洋風かわらびきで正面玄関は北東を向いています。この庁舎は昭和20年に、戦災に遭ってまで使用されました。

宇都宮市年表

西暦	年	主な出来事
1918	7	▽バス営業が開始 ▽市制施行20周年および水道落成記念式典
1916	5	▽市営火葬場の使用開始 ▽上水道の給水開始
1914	3	▽向寺の銅製阿弥陀如来像が国宝に指定される
1912	45	▽市内にガス供給が始まる ▽市庁舎が落成(旭町)
1911	44	▽清厳寺鉄塔婆が国宝に指定される ▽市の記章を制定、人口5万人となる



◀日光街道の送水管敷設 今市の浄水構場から国本村大字戸祭(現・中戸祭)の配水構場(約27キロメートル)に送水するため、日光杉並木でも敷設工事が行われました。

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

お客様との出会いも カクテルとの出会いも一期一会

ヴァルズ・バー 大塚 一人さん



4月に東京で開かれた「パドロン・カクテルコンペティション&シガーナイト」で、初代王座に輝いた大塚さん。「応援する皆さんが喜んでくれたことが何よりもうれしかった」と振り返ります。

昨年まで宇都宮カクテル倶楽部の代表幹事を務めるなど、すでに経験豊富な大塚さん。キャリアを積み、30代以上になる頃にはコンテストに出場しなくなる人が多い中、25年ぶり51歳での異例の挑戦。「負けたらどうする」という周囲の声を振り切って出場を決意したのは、「カクテルの街 宇都宮」の第一人者だからこそ感じる危機感でした。「最近銀座にやられっぱなし。若手の奮起を促すには、言葉よりも、まず自分たちの世代が行動すること」ときっかけを話します。

カクテルとの出会いも一期一会」と言う大塚さんの店には、決まったカクテルメニューはありません。お客さんとコミュニケーションを取りながら、常に新たなものを提供していると言います。「無数の組み合わせから新しいものを作る。数ある物作りの仕事のうち、こういう仕事は希少です」と胸を張ります。

「いくつになっても挑戦。非日常の緊張感は刺激にもなりますし、若い世代も臆せずチャレンジしてほしい」と大塚さん。カクテルの街の先頭に立ち、今日もシェーカーを振っています。